

平成30年度 第2回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録（確定稿）

- 開催日時：平成30年7月10日（火）18時30分～20時35分
- 開催場所：田無総合福祉センター4階 第3会議室
- 出席委員：小野修平、荘雄一朗、谷口陽香、野崎信行、阿壽子、渡辺裕一
＜以上6名、敬称略、五十音順＞
- 出席役職員：佐藤文俊、小平勝一、飯塚和幸、嶋田孝雄、長山清美

- 資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告（平成30年5～6月）
- 資料 2：コーディネート状況等月次報告表（平成30年5～6月）
- 資料 3：ボランティアコーディネート実績表（平成30年5～6月）
- 資料 4：ボラフェス2018事業実施報告書
- 資料 5：ボラフェス2018参加者アンケート集計結果
- 資料 6：ボラフェス2018参加団体アンケート集計結果
- 資料 7：西東京ボランティア・市民活動センター予定表（7～8月）
- 資料 8：平成30年度第1回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録
（未定稿）案
- 資料 9：災害ボランティア養成講習会 事業実施企画書
- 資料10：ボランティア・市民活動センター事業の基本方針
※アクションプラン（仮称）用に作成した資料です。
- 資料11：西東京ボランティア・市民活動センター アクションプラン（仮称）スケジュール
- 資料12：平成30年度区市町村ボランティア・市民活動センター運営委員およびセンター
長等合同会議開催告知
- 資料別冊：平成30年度第6回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録
＜確定稿＞

○委員会の開会に先立ち、大雨の被害に関する情報について情報交換を行う。

- ・広島、岡山、愛媛を中心とした豪雨災害が発生し、災害ボラセンが立ち上がり始めた。現在は、人命救助優先となっており、被災地外の方を対象にした本格的なボランティアの募集は今後始まると想定している。
- ・ほとんどのボランティア団体が、まず京都に入り、その後に広島・岡山にほぼ流れている。愛媛や九州北部ではコーディネートできる人が手薄になる感がある。市町村の認識も若干甘いという話もある。次の3連休の体制を調整しないとボランティアの偏りが生まれると思われる。明日一番で愛媛県社協を経由し、西予市社協に関わるつもりである。
- ・岡山県に知り合いがいるが隣町が水没したと聞いた。予測もしておらず、備えもない状況で、間近に起こって実感した状況であったとの話しがあった。平時からの準備の大切さを感じたが、私たちも学びを重ねながら、備えをしていくことができればと思う。

1. 報 告 事 項

(1). 業務報告(平成 30 年 5 月・6 月)について (資料 1～3)

- ・ボランティアの登録者数がだいぶ戻ったということだが、高齢者の暮らしサポートボランティア講座のエネルギーが大きかったのか。
→そうでもない。今回はその場で登録してもらうような声掛けをしたところ登録に結びついた。
→その場で声掛けをすることが良かったのだろう。
→オレンジリングについては悩みがあって、取得後に次の活動に結びつかない課題があった。
そのような方々に今回集まっていただき、何か役立つかもと思ってもらい、次の活動につなげられるように話しをしたところで、救い上げることができたのではないかと考える。
- ・5月の登録ボランティア数の減少幅が少ないように思われる。
→5年前には500～600名のボランティア登録があった。ただ、当時はボランティア登録者数を減らすことができない事情があり、確認作業が十分にとられなかった背景もある。
- ・今現在は増えているのか。
→昨年度から増加の傾向がある。
- ・夏！体験ボランティアの状況であるが、現在のところ75名の申し込み受付をした。中学生以上が57名、小学生が18名となっている。受付開始から1週間で、昨年全参加者の半数の申し込みがあった。例年の1.5倍のスピードでの申し込みとなっている。
- ・昨年と違うのが、課題のために参加した生徒が多いという状況がある。現時点では参加申込者の7割が課題での参加である。恐らくオリパラ教育が影響していると思われる。
- ・東京ボラセンもガイダンスを6回予定しているが、想定よりも早い段階で2部屋使用して実施するようになった。学校からの相談も昨年より多い状況。都内全域で多くなるのではと思っている。
- ・課題と明確に言っていることは悪くない。ボランティア活動を体験する中で、本当のボランティアに結びついていけばよいと思う。楽しさとかやりがいを感じてもらえればよい。
- ・『言われたのできました、何がありますか？何をしたらよいでしょうか？』とボラセンに聞いてくる参加者が多い。その点が少し気になる。
→そのような状況下では、参加者に対する説明等において、職員の資質も問われてくるだろう。
- ・ボランティア保険でなく学校で入っている保険で対応する場合について、相手のほうまでカバーできているかどうか参加者わかっていないケースが多い。教師がわかっているけど生徒が分かっていないので、トラブルが起きないかが心配である。
- ・大学でも課題で出す際にはボランティアではないことを伝え、学校で保険に入る旨を全体会で資料を示して説明し、かつ自分で払い込みに行ってもらうのだが、不思議と全体に浸透しない。
- ・夏ボラはボランティア保険に入ることができるが、単位取得のものは不可となっている。オリパラもあるので、それについても教育委員会と今後の対応方法について話していかなければならないと考える。

(2). ボラフェス2018の実施報告について (資料4～6)

- ・もっと来場者がいるという話もあるが、入場者のカウント方法はどのようにしているのか。

→配布したパンフレット数でカウントしているが、1家族に1枚しか渡していない時間帯があったり、入口を正面入口1か所に誘導するのだが守衛室前の入口からも多数来場者が入場してしまったため、実際の来場者はもっと多いと思われる。

- ・来年3月に社会福祉協議会が総合福祉センター内に移転してくる予定で、今まで通りの館内の利用ができなくなると思われるが、今後も総合福祉センター内で工夫をして開催していく方向性となっている。

(3). 業務予定(平成30年7月・8月)について (資料7)

- ・8月19日(日)の教えて!もしもの避難所ネットワークの学習会では、「災害ボランティアセンターって何?」というミニ講座をボラセン職員にやってもらう予定。避難所ネットワークのみなさんは災害ボラセンのことを知らない方も多いので大きな一歩になると思う。

2. 審 議 事 項

(1). 平成30年度第1回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録(未定稿)案について (資料8)

- ・確定稿とすることについて承認される。

3. 協 議 事 項

(1). 災害ボランティア養成講習会の実施について (資料9)

- ・ニーズという点を中心に話をしようと思うが、被災した際にどんなニーズが上がってくるか、住民が聞くレベルのニーズ伺いから社協職員が聞くレベルでのニーズ調査もある。今回は、社協職員にもぜひ参加できるように調整をしてほしいと思う。
- ・レスキューバードへの加入者10名を目標としているようだが。
→46人のメンバーのうち約30名が講座出身。昨年は1日限りの実施で加入者がほぼいなかったため、今回は複数日ということで親近感や災害への意識を持ってもらえるのではないかと考え、期待している。
- ・普段からの繋がりが大切であろう。災害時に急にとっても難しい。
- ・昨年は雨で訓練が中止になったが、昨年のメニューのままだと、避難所や自宅で起こらないようなことや優先順位が低いものがボランティア活動メニューとなっている状況があった。今回ニーズの話しをさせてもらうが、それも踏まえて訓練もぜひ考慮してほしい。
→マッチングの部分は誰でもできるので、そのような訓練をするよりは、被災者役とニーズ受付をするスタッフとのやり取りをする時間を増やしてもらった方がより実動的な訓練になると思う。
- ・講座の2日目は訓練への参加となるが、訓練自体の規模はどのくらいなのか。
→200名のボランティアを募集することになっている。
→昨年の150名から大幅に増えたようだ。
→人数を増やせばよいというものではないので、ニーズ受付を意識したメニュー作りやニーズ班による来訪のニーズ受付と電話受付の活動ができるようにできればよいと思う。

- ・登録ボランティアの2人に1人が来てもらえると良い。
→ぼらんていあ倶楽部の発送の際に募集チラシを同封する予定である。
- ・谷戸小学校が訓練会場の一つとなるようだが。
→体育館を使用する予定である。翌週に学芸会があり難しい状況ではある。体育館全面は準備の都合上、使用できない。
→臨場感があってかえって良いのではないか。
→谷戸小学校の避難所運営協議会も参加予定である。

(2)．アクションプラン（仮称）の策定について（資料10・11）

- ・正副委員長の打ち合わせを踏まえ、完璧なものではなく、たたき台で構わないので、各事業でどのようなことをやっているか見える資料の作成を、ボラセン職員に依頼をしたところである。本日挙げてもらったのがその資料であり、一緒に考え、議論を重ねていければと思っている。
- ・今までの議論の中では5つの柱を図式化し、共有してきたわけだが、その先には目指す市民社会があり、それに向けてボラセンが5つの柱に対して具体的にどんな事業をやっているかがあげられている。
- ・これから5年計画を構築するわけだが、この5つの柱に対し、もっと必要なことや、現在やっている事業の中も閉じて新しい事業に代えていく必要があることなどについて議論をする必要があると思われる。また地域福祉活動計画に関する議論も進んでいるとのことなので、そちらも含めて話し合っていきたい。
- ・地域福祉活動計画は選出された市民の委員が検討しているところである。地域福祉活動計画プロジェクトチームで職員が検討しているのは、社協のアクションプランになる。社協のアクションプランにおけるボラセンの部分については担当者がボラセン職員ではないため、話し合いながらプランを作成しているところである。
- ・現在のプランの中では運営委員会で話されてきた「プラットフォームとしてのボラセン」という内容を一つの方向性として盛り込むことができている状況でないと考えている。これを踏まえて、今回のボラセンのアクションプランについて検討をお願いしたい。
- ・ボラセンのアクションプランは、社協のアクションプランをある程度踏まえたものにしなければならないので、反映できるかわからないが、社協のアクションプランについても、ぜひここで議論ができればと思っている。
- ・目標値は2つにするということか。
→3つでも構わないが、4つ以上ということは考えにくい。
- ・協働する団体数は現在どのくらいあるか。
→事業計画には4団体掲載している。これから動き出す予定のものが1つある。
また「協働」までたどり着いていないものもある。
今年度からの事業なので、まだ軌道に乗っていないのが実状。
- ・新規ボランティア登録者数の目標だが、協働する団体の目標数と合わせるような形で、ボランティア登録者数にしてはどうか。新規ボランティア登録者数の目標数と同じように考えると、毎年協働する団体数を数団体ずつ増やしていくように勘違いすると思われる。
- ・数字の上げ幅については、理想というより達成可能な数字を掲載することになっているので、あまり極端な数字を掲載することはできない。

- ・窓口を一本化することを想定しているとなれば、登録ボランティア数も大幅に増えるのでは。
- ・いずれにしても現実を反映した目標数値の設定が必要だが、職員配置が増えるようであれば、その分目標数値も上積みする必要があるだろう。
→職員配置が増えるとは限らない。むしろその可能性は低く、実現するかわからない。
- ・いずれにしても目標数値はしっかり変えておかないと、何のために計画を立てているかわからなくなる。
- ・ほっとネットやりんく、ふれまの一本化について、34年度からボラセンが乗っかるという形だと乗り遅れてしまうのだが、それで良いのか。窓口の一本化は31年度からは試行し、32年度からは実施とし、事業の統合は33年度以降とした方が現実的で乗り遅れがないのではないか。34年度では遅いような気がする。
- ・ほっとネットやりんく、ふれまの統合は、市の流れの中で優先となっており、ボラセンが乗り遅れているのは否めない。32年度当初から先にあげた3事業は一緒になる方向だが、一緒になったところで、次にボラセンについて話し合っていくという流れで、行政との調整、社協内部の調整で2年かかると見ている。
- ・32年度に統合される理由として、まとめて委託事業にしやすいという行政側の理由が大きい。
ボラセンは委託事業でないため、一緒に行おうとすると委託事業になりかねない不安もある。
- ・委託事業でないからボラセンは入れないというイメージもある。運営委員会のイメージとは違った形での基盤作りがされてしまうのではないと思われる。
→行政の考え方なので、運用する際に検討していただいたことをうまく反映させていながら、この2年間のすり合わせの中で行えたら良いのではないだろうか。
- ・3つの事業をまとめる話し合いには参加しているのか。
→5月に地域福祉活動計画と地域福祉計画の合同会議を行っており、そこで方向性が出て、地域福祉活動計画策定委員会の会議でも進めているところである。
- ・決まってから話し合いに参加するよりも、ずっと話し合いに参加している中で窓口を一本化する話が出ていれば32年度から実施できるだろう。話し合いが終わってからだと33年度や34年度になってしまう。
- ・その根拠が、地域福祉計画や地域福祉活動計画にしっかり書かれていないとマッチしてこない活動になってしまう。
- ・あまり要求が高くなると、この項目自体がアクションプランに掲載できなくなる可能性もある。
- ・ほっとネット、りんく、ふれまの活動者のみなさんはベテランの方が多い。あと10年で引退してしまったら西東京の市民活動がどうなるかが不安である。整理をしようとする計画の5年が終わった時に活動しているコアな人たちがいなくなってしまう可能性がある。ボラセンは入口から出口まで考えてやっているので、31年度からしっかり関わって新しいボランティアを育てていかないとやっていくことができないだろう。
- ・ほっとネット、りんく、ふれまの活動者の方々は、いろいろな役をたくさん持っている。それを見ている若い世代の方々はこのようなベテラン層を見てしまうと、「これはできない」、「一歩足を踏み入れたらあぁなってしまう」と思っている。ボラセンに来たら自分のできることを、1日でも可能な活動があることを紹介できるのが強みの1つでもあるので、31年度からマッチしていくことができないのは危機感を抱いてしまう。
- ・今は、ほっとネット、りんく、ふれまの切り口で話しをしているが、全体としてボランティ

ア活動を地域福祉計画や地域福祉活動計画が取り合わない理由もないと思う。それがどのように重なっていくのか、取り上げ方によってはイメージする形にはならないかもしれないが、「ボランティア」という言葉が触れられないことは全くないと思うので、あとは運用の問題になる。

- ・懸念されるのが、ほっとネット、りんく、ふれまちが一つになった際に、ボランティアな活動からかい離していく可能性があるのではないか、ボランティア活動につながってこなくなるのではないかと、有機的な市民の活動が広がっていかなくなったり、発展していかなくなってしまうのではないかとすることが心配である。そのようなかい離を起こさないためにも31年度からしっかり流れに絡んでいって、みんながボラセンが絡むことをイメージできればよいと思う。→職員レベルでは話し合いは始まっている。計画の位置づけとしてはセットとして出るのか、別々に出るのかは計画サイドの都合になるだろう。
- ・地域福祉計画の委員をやっているが、次回の会議で目次を話し合う段階になる。そこで一文でも良いので、ボランティア活動の入口としてボランティアセンターの充実を図るという文言をどこかのページに入れてもらおうとは思っている。
- ・いずれにしても運営委員会としての思いを伝えさせてもらったということにしたい。
- ・今回ボラセンのアクションプラン用に作成・提出いただいた事業ごとのプランについては、みなさんからご意見いただく時間がなくなってしまった。みなさんには目を通してもらい、次回の議論の中でご意見をいただければと思う。その際に5つの柱と社協の作っているアクションプランも踏まえながらご意見をいただければと思う。
- ・コーディネート業務の「基本的な方向性」の部分に、「地域の課題解決に取り組む新たな活動者を増やす」を書き足してもらえると良い。
- ・次回以降であるが、18項目あるが全員で一斉に検討すると大変なので、2～3グループ分けし、分担して具体的な議論をすることとしたい。
- ・ボラセンのアクションプランを策定するスケジュールを考えると、あと2回で内容を固め、地域福祉活動計画や社協のアクションプランと整合性を図る必要が出てくる。次回以降の会議は、報告事項をできるだけ簡潔にし、議論する時間を十分にとる必要がある。
- ・9月と11月の会議で固めていくこととする。グループ分けは正副委員長に任せてほしい。

4. そ の 他

(1). 次回運営委員会開催日程について

■開催日時：平成30年9月11日（火）18時30分～20時30分

■開催場所：田無総合福祉センター4階 第3会議室

(2). その他

○区市町村ボランティア・市民活動センター運営委員およびセンター長等合同会議について

- ・今回は荒川区を会場として9月6日に開催する予定。午前中にはまち歩きのオプションプログラムがある。ご都合のつく方はぜひご参加いただきたい。改めてご案内をさせていただく予定である。

●以上をもって平成30年度第2回運営委員会の審議、協議を終了し、閉会した。